令和7年度 日独学生青年リーダー交流事業(地方プログラム)報告書

[主 催] 独立行政法人国立青少年教育振興機構(担当課:子どもゆめ基金部国際・企画課) ※地方プログラム担当:国立曽爾青少年自然の家

[期日]令和7年8月28日(木)~9月3日(水)

[対象者] ドイツ連邦共和国在住で、青少年団体等においてボランティア活動や社会貢献活動を 行っている者

[参加/募集]8名/9名

[協力団体] 曽爾村立曽爾小中学校(学校訪問)、曽爾村学童保育(学童訪問)、室生国際交流村実行 委員会(ホームステイ)、NPO法人うだ夢創の里(ホストファミリーとの交流会会場)

[担 当] 坂本純一(主任企画指導専門職) 増田 学(企画指導専門職)

福田 卓(管理係主任)

千葉博仁 (事業推進係員)

1 趣 旨

日本とドイツの青少年団体等でリーダーとして活動する学生・青年等が、文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図ることを目的とする。

2 ねらい

体験活動等の場面	(独): ドイツ団の主なねらい (日): 日本(自然の家法人ボランティア等)の主なねらい									
①指導現場·意見交換	(日)自分たちのボランティア活動について伝える等の交流を通して、ドイ									
会、歓迎・交流会ほか	ツの活動等について学ぶ。									
一 本、歓迎・文派去はか	(独)地方施設で活動しているボランティアの実態等について学ぶ。									
②日本文化体験	(日独)日本、地域の伝統文化や歴史を知り、体験を通して学んだことを今後									
(地域伝統文化体験)	の活動につなげる。									
③学校・学童保育など	(日独)共に学内外で活動する中で地域の子どもの実状を学ぶ。									
での体験	(独)過疎地域・曽爾において異文化紹介の機会をもち、曽爾村に貢献する。									
④自然の家プログラム	(独)日本の青少年教育施設で実施している活動や指導方法などを学ぶ。									
体験	(日)共に活動する中で支援等を行うことで交流を深める。									
「 ⑤ホームステイ体験	(独)日本の家庭ではどのように生活をしているのかを知り、文化や生活につ									
シャームへ ナイ 体験	いての共通点や相違点を学ぶ。									

3 プログラム展開

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	13	18	19	20	21	22	23	〈宿泊〉	目的
8/28(木)	類西国際空港 到着 12.00出発					【移動】 関西国際空港 → 普爾青少年自然の家 ※昼食はバス内で食べる 1445頃普爾青少年自然の家到着			入所式 特殊を オリエンテーション ペッド・イ インフォメーション キング		**	夕食(食堂) 入浴		団ミーティング			t寝	曽爾青少年自然の家		
8/29(金)	起床 朝食 自然の家 稲 か					昼食 (食堂)		ステイに向! :一ムスティ 団ミーティン								各ホームステイ先	4 5			
8/30(±)	ホームステイ														各ホームステイ先	2 5				
8/31(日)	ホームステイ							ホームステイ (軟送会) 室生一曽爾 ペパドメイキン ※希 ケ が ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※				温泉体験 新望者はお1	温泉体験					枕寝	曽爾青少年自然の家	2 5
9/1(月)	á	床	朝食 (食堂) 活動準備	曽爾がランティアといせ せ 活動紹介	移動	曽爾小中学校訪問 ドイツ団	型 型	曽爾小・学校訪!	移	曽開村学 ドイツ団 + テイ	童訪問 曽爾ボラン ア 移	休憩 田ミー ティン グ	夕食(食堂) 入浴	曾爾木 5	ティアとの歓迎・3	と流会 ^{休憩} 田ミー ティンク		枕寝	曽爾青少年自然の家	① ③
9/2(火)	起床	カ山 胡食 野外炊事 昼食・片付け 休息 ボランチ・ア (変堂) (変型) ボランチ・ア (野外炊事) ボランチ・ア ボランチ・ア ボランチ・ア ボラン・エール ボラン					ボラ	ボランティアディスカッション			夕食(食堂) 入浴		休憩 団ミーティング		8	t寝	曽爾青少年自然の家	① ④		
9/3(水)	起床 期のつどい 朝食 (食堂) 退所準備 退所式 【移動】管爾青少年自然の家 一 名様駅 ※所のマイクロバスで送る 名張駅 一 東京										·	東京泊	4							

4 活動の様子



【木のスプーン・フォークづくりのようす】



【ホストファミリーとの対面式のようす】



【ホストファミリーとの歓送会のようす



【曽爾法人ボランティアとの活動紹介のようす】



【曽爾村立曽爾小中学校訪問のようす】



【曽爾村学童保育訪問のようす】



【ボランティア交流企画のようす】



【曽爾高原ハイキング(亀山)のようす】



【野外炊事のようす】



【曽爾自然の家法人ボランティアとの交流のようす】



【朝のつどいのようす】

5 まとめ(ねらいに対する参加者の感想、ねらいに対するアンケート結果)

- ・ホームステイでは、各家庭にて家庭料理をふるまっていただき日本の生活を体験した。 観光やショッピング、外食を通じて日本のことをたくさん体験し、ホストファミリーとのつながりを深め る機会となった。
- ・児童・生徒との交流、発表、教室での給食や掃除の体験、書道の時間がとても良くて感動した。日本の学校制度を体験できたことで学びを深めることができた。
- ・ボランティアディスカッションでは、各国のボランティア活動・参画の意義を共有し理解を深めた。また、 各国の環境や教育など幅広いテーマにまで視野を広げて、お互いの国を知る有意義な時間となった。